



先人が築いた伝統を途絶えさせない 西根甚句踊り伝承にかける熱い思い



ただよし 佐々木 忠良さん(74歳)

西根下谷地在住

母の影響で西根甚句踊りの一員となった。同保存会の会長のほか、平成23年度から26年度まで町郷土芸能保存会の会長も務めた。踊り手で妻の順子さん、孫と3人暮らし。

「先人たちが築いてきた伝統が好きで続けてきた。それを途絶えさせたくない」と伝承への思いを語る忠良さん。長年西根甚句踊りを支え、現在は保存会の会長を務めている。

西根甚句踊りは地域内の祝い事や文化祭、夏祭りなどで踊られてきた。昭和44年には保存会が結成され、翌45年には町の無形文化財の指定を受けた。また、金ヶ崎中学校の体育祭で女子生徒全員が踊りを披露するのが恒例となっている。

忠良さんは母親が踊り手をしてきたこともあり、昭和50年ころに入会。以来40年以上にわたり、西根甚句踊りの保存と発展に尽くしてきた。担当している三味線は、岩手県内で最大の三味線同好会に所属し、腕を磨いてきた。

現在、後継者不足の問題を抱える中、忠良さんは踊りの披露や指導を通して、多くの人に興味を持ってもらえよう取り組んでいる。研修会や講習会の開催のほか、踊りを好きになるきっかけになればと毎年保存会で中学生を指導している。体育祭での踊りを心待ちにしている地域住民も多く、「年々上手になってきていると言われるとうれしい」と忠良さん。今後、子どもが楽しさを感じられるような取り組みをしていきたいと考えを巡らせる。

「公演の依頼があればいつでも踊ろうという意気込みを持っている。後継者を育て、途絶えさせることなく伝えていきたい」と熱い思いをのぞかせていた。

広報日記



▽明けましておめでとうございませう。今年も広報かねがさきをよろしく願います。▽年明けの行事で大きく変わった成人式。53年ぶりの冬開催となりました。新成人の希望と冬開催に向けての働きかけで実現でき、新成人にとつて特別なものになったのではないのでしょうか。▽さて、今年も西年。金ヶ崎町、そして自分自身も大きく飛躍できる年になればいいなあと思います。しかし、いきなり飛ぼうと思っても飛べるものではないですね。考えをまとめたり、準備をしたりとコツコツと積み重ねて飛躍したいと思えます。

(千田達也)

金ヶ崎町の 花鳥木



町の花
「さつき」



町の鳥
「やまどり」



町の木
「すぎ」

